

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
図書館
管理係

事務事業名	図書館維持管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	図書館利用者の安全と衛生を確保し、便利で快適に図書館を利用できるようにする。				
内容	施設の修繕及び保守点検並びに館内の清掃、衛生管理を行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	図書館利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位
	冷暖房空調保守点検回数	図書館が委託する冷房保守点検の回数	目標	2	2	2	回
成果指標	館内外からの衛生・美化に関する苦情	館内・敷地内の衛生・美化に関する市民からの苦情を受けた件数	目標	0	0	0	件
			実績	0	0		
予算科目	区分 一般会計	款 10 教育費	項 5 社会教育費	目 5 図書館費			
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額		
総事業費	48,067	38,498	107,513	47,400	47,400		
事業経費	35,067	25,498	97,113	37,000	37,000		
特定財源	291	198	61,850	150	150		
従事職員等数	2.00	2.00	1.60	1.60	1.60		
概算人件費	13,000	13,000	10,400	10,400	10,400		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	施設全体の経年劣化が進んでいるため、定期的な施設点検を行い、維持管理に取組む必要がある。
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない。
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策的意思決定を必要とするため。
	有効性	指標の実績	達成できた	想定どおりのサービスを提供できた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた。	
	手段の妥当性	妥当	なくてはならない事業のため。	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	開館から18年以上が経過し、経年劣化による施設の修繕が増える傾向にあるので、計画的な設備の更新が必要です。また、冷暖房空調設備(チラーユニット)及び空調設備自動制御装置については、今年度改修予定です。
今後の取組み	適正な施設の点検及び修繕を行うことにより、安全と衛生の質を落とさず、快適な空間として図書館を利用できるようにする。

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
図書館

事務事業名	図書館まつり事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	図書館まつり及び図書館こどもまつりを通じて図書館の活動をPRすることにより、新たな利用者を確保し、日常的な図書館利用を促す。				
内容	図書館まつり及び図書館こどもまつりを通じて図書館の活動をPRすることにより、新たな利用者を確保し、日常的な図書館利用を促す。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	図書館利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	図書館まつり打合せ回数	職員及びボランティアによる打合せ会議開催回数		目標	10	10	10	回
実績				10	10			
成果指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	図書館まつり参加者数	図書館まつり参加者数		目標	350	350	300	人
実績				172	296			
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額			
総事業費	45,520	45,530	1,990	1,990	1,950			
事業経費	20	30	40	40	0			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	7.00	7.00	0.30	0.30	0.30			
概算人件費	45,500	45,500	1,950	1,950	1,950			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	多くの市民に親しんでもらい、来館者を増やすことにより、図書館の利用率が高められる。
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない。
		主体の妥当性	市が推進すべき	一部イベントの委託は可能だが、全体的なとりまとめを必要とするため。
	有効性	指標の実績	達成できた	打合せ回数の活動指標目標達成状況は100%になった。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた。	
	手段の妥当性	妥当	図書館の利用率が高められる。	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	日常的に図書館に来館している方の参加者が多い。また、新たな利用者が参加できるような魅力ある図書館まつりが開催出来るよう内容の充実及び、PR方法等が課題である。
今後の取組み	図書館まつり等のイベントを企画するうえ、開館当初から協力をいただいている図書館ボランティアの方々と連携をして、充実した図書館まつりを開催する。

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
図書館

事務事業名	映画会開催事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	映画会を開催することで図書館に来館する機会を作り、来館者の増につなげる。				
内容	大人対象の映画会である図書館映画会及び子ども映画会を開催する。ポスターやお知らせ版にて周知している。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	図書館利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	映画会開催回数	年間に図書館映画会及び子ども映画会を開催した回数	目標		24	24	24	回
実績				27	23			
成果指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	映画会入場者数	図書館映画会及び子ども映画会入場者数	目標		360	360	360	人
実績				384	402			
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 公民館費
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額			
総事業費	1,616	2,041	2,275	2,310	2,310			
事業経費	316	741	975	1,010	1,010			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20			
概算人件費	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	多くの市民に親しんでもらい、来館者を増やすことにより、図書館の利用率が高められる。
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない。
		主体の妥当性	市が推進すべき	イベントの委託は可能だが、著作権の関係もあり市が推進すべき。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定どおりのサービスを提供できた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた。	
	手段の妥当性	妥当	図書館の利用率が高められる。	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	著作権や予算の関係で上映作品に限られる中で、多くの入場者を望める作品を選定し、上映していく必要がある。また、入場者が固定してきているので、新たな入場者につなげられるようなPRや作品選定が課題である。
今後の取組み	著作権や予算の関係で上映作品に限られる中で、来館者(入場者)のニーズに合った上映作品を選定し映画会を開催をする。

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
図書館
サービス係

事務事業名	資料選定購入事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	市民の教養、調査研究に応えるため資料を選定購入し利用に供することにより、教育文化の向上を図る				
内容	下妻市立図書館資料収集方針及び下妻市立図書館資料収集計画(年次作成)に基づき資料を選定購入し、市民の利用に供する				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	新刊案内、展示会等による選定回数	新刊案内等による選定書での選定と展示会等による見計らいでの選定回数	目標	52	52	52	回	
		実績	57	54				
成果指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	図書館資料点数	図書館に所蔵されている資料点数	目標	210,600	215,500	211,500		
		実績	211,424	212,759				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額			
総事業費	29,533	29,538	23,038	23,038	23,038			
事業経費	10,033	10,038	10,038	10,038	10,038			
特定財源	164	123	97	97	97			
従事職員等数	3.00	3.00	2.00	2.00	2.00			
概算人件費	19,500	19,500	13,000	13,000	13,000			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	社会情勢の変化にかかわらず恒久的なものである
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	専門知識と継続的なサービスを供する必要がある
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	工夫して提供することができた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	妥当	専門知識が必要かつ効率がよい	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市民の教養、調査研究に応えるため必要な資料を必要十分に揃えるため、予算内で選定購入する必要がある。
今後の取組み	新刊案内や展示会を利用し、資料の幅広い情報を得るとともに、リクエスト等により資料者ニーズを把握して、より良い資料を選定購入する。

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
図書館
サービス係

事務事業名	蔵書管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	計画的に蔵書管理をし、利用者からの要求に対し適切な資料提供をすることにより教育と文化の向上を図る				
内容	利用者への適切な資料提供のため、計画的に蔵書点検、書架整理、修理、装備をし蔵書管理をする				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	蔵書数	蔵書点検時での蔵書数	目標	213,000	214,000	212,000	点	
		実績	210,545	210,870				
成果指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	蔵書点検対象点数	年1回蔵書目録と蔵書を照合し、蔵書の現状や紛失資料の把握を行う蔵書点数	目標	203,000	205,000	201,000		
		実績	202,996	203,020				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額			
総事業費	14,321	14,083	14,757	14,757	14,757			
事業経費	1,321	1,083	1,757	1,757	1,757			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00			
概算人件費	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	図書館運営の根幹をなすものである
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	専門知識と継続的なサービスが必要である
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定どおりのサービスをほぼ提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標をほぼ達成できた	
	手段の妥当性	妥当	専門知識が必要かつ効率がよい	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	蔵書数が増えるにしたがって蔵書点検対象点数も増えていき、それだけ点検作業に時間がかかるようになるのを決められた期間内で蔵書点検作業を終了させることが課題である。
今後の取組み	書架整理・修理については、図書館ボランティアの協力を得ながら実施していく。紛失資料対策としては、BDS(持出防止システム)を利用して、紛失防止を図っていく。

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
図書館
サービス係

事務事業名	図書館利用サービス事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	市民の教養、調査研究に因るため資料の貸出および相談に因じ、教育と文化の向上を図る				
内容	利用者へ適切で迅速に資料提供を行えるよう、図書等の貸出・予約・相互貸借・レファレンスを行う				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	図書等の貸出点数	図書等(DVD・CD等含む)の貸出点数	目標	233,000	230,000	205,000	点	
		実績	227,114	207,738				
成果指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	図書等の貸出点数増減率	昨年度に対して図書等の貸出点数の増減率	目標	減なし	減なし	減なし	%	
		実績	-3	-9				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額			
総事業費	39,356	39,800	25,500	25,500	25,500			
事業経費	6,856	7,300	7,300	7,300	7,300			
特定財源	25	36	30	30	30			
従事職員等数	5.00	5.00	2.80	2.80	2.80			
概算人件費	32,500	32,500	18,200	18,200	18,200			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	社会情勢の変化にかかわらず恒久的なものである
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	専門知識と継続的なサービスを供する必要がある
	有効性	指標の実績	達成できなかった	目標には届かなかった
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標をほぼ達成している	
	手段の妥当性	妥当	専門知識が必要かつ効率がよい	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	図書等の貸出率を上げることも大切だが、いわゆるベストセラーばかりで揃えるのではなく、貸出不可の辞書辞典類や利用の少ない郷土資料・大活字本など利用者ニーズに配慮した蔵書バランスを考えて揃えることが課題である。
今後の取組み	利用者が借りやすくなるスタイルを考えていくとともに、現在図書館を利用していない市民の方、これから図書館を利用するだろう子どもたちに図書館を少しでも利用しやすくするよう方策を考えていく。